

大野城市民読書活動推進計画 施策進捗状況シート

P 計画の基本事項				
基本目標	3 読書ネットワークの充実			
施策	(1) まどかぴあを中心としたネットワークの推進			
施策の方向性	本の専門家である司書へ誰もが気軽に相談できる窓口を設置し、市民及び関係機関へ広く周知を行います。また、市民の読書活動を推進するために、ICTの活用等、図書館と学校、地域の連携のあり方を検討していきます。			
主な取組	①相談窓口の充実			
	②時代に即した連携のあり方の検討			
成果指標	相談窓口・レファレンス利用者満足度	策定時点	目標値(R9)	
		—	80.0%	
D 令和4年度(具体的な事業実施状況調査より)				
評価指標	重点事業	指標	実績(R4)	目標値(R5)
	相談窓口及びレファレンスサービスの活用促進	年間受付件数	7,967件	6,000件
主な取組の実施状況及び今後の方針 ◎期待以上 ○期待どおり △もう少し	①相談窓口の充実		達成状況	
	◆図書館のしらべものカウンター及び児童カウンターでレファレンスを受付している(レファレンス件数:7,967件※うち児童カウンターの件数:738件)。この図書館利用者向けレファレンスサービス以外にも、学校、地域貸出文庫、コミュニティセンター、読書ボランティア等からの選書支援や読書活動に関する相談対応を行っている(令和4年度は地域貸出文庫連絡協議会の研修の一環として図書修理に関する研修実績あり)が、あまり認知されていないのが現状である。今後は気軽に相談できる場として、周知を強化し活用促進を図っていく。		※令和4年度は計画対象外	
	②時代に即した連携のあり方の検討		達成状況	
	◆図書館と学校図書室は、団体貸出と「まどかぴあ図書館・小中学校図書室連携部会」を中心とした連携を行っている。システムについては現在それぞれ異なるものを使用しているため連携は行っていない。今後は、子どもが身近な場所で読書に親しめるような環境づくりを目指し、システムや配送を含めた連携のあり方を検討していく。 ◆学校図書室では蔵書管理や貸出・返却、学校間での相互貸借にシステムを活用し業務の効率化を図っているが、システムやバーコードの劣化等によるエラーが多く読込みに時間がかかったり、うまく処理できていなかったりすることがあるため課題となっている。		※令和4年度は計画対象外	
C 評価				
推進委員会評価	図書館のしらべものカウンターは職員が常駐できているが、児童カウンターは土日祝日と夏休みしか常駐できていない。ボランティアの方々の相談対応もゆっくり児童カウンターで伺いたいが、常駐できていないため難しい。人員不足で児童カウンターがうまく活用できていない状況であるため、できるだけ早く常駐できるよう整備していく。			
検討が必要な事項	◆児童カウンターへの職員常駐に向けた事業等の整理(実施主体:市、図書館)			
A 改善				
改善に向けた取組等	◆まどかぴあ図書館の司書の業務について、大野城市民読書活動推進計画に即した事業となるよう見直しと整理を行っていく。また、来館者がカウンターで相談しやすい環境を整える。			